

### 第3テーマ「どうすれば地域で暮らしていけるのか？緊急時どうしていますか？」

地域生活支援拠点整備に向け、テーマにそって意見交換しました。

○参加者 19名

○緊急と感じた時とは？

- ・就労移行のサビ管をしていた時、家がなく緊急で GH への入居を決める際に、日中の居場所の確保が必要となり、就労移行の利用を緊急に決めた。
- ・触法で執行猶予中の方の日中活動、一度お断りをして、内部で支援体制を調整し受け入れ可能にしたが、再犯で刑務所に入ってしまった後だった。(タイミングとして緊急時であったか)
- ・夜中にお金を持たずにコンビニに行き「これを売ってくれ」「だめならここに電話してくれ」と、コンビニから連絡が来て駆けつけたことがあるが、家に帰れないという SOS だった。

○今後、緊急な支援が必要になると感じる方とは？

- ・身体と知的障害の方。母は認知症で父は入院中。金銭管理もできず、生活が上手く回らず、働く意欲や余力がなくなってしまう。独居の方は、病気になったら誰が支えるのか。
- ・下諏訪町は、要援護支援者名簿に障がい者が含まれていない。外見からではわからず、助けようがない。災害時の支援の対象として真剣に考えるべきではないかと思う。  
→諏訪市では、障がい者など対象者に郵送で要援護者名簿への登録を呼びかけており、情報の開示については、同意書ももらっている。地区と民生委員等へ名簿を配布しているので、必要があれば近隣住民へ伝えてもらう。  
→岡谷市もほぼ同じ。家庭によっては開示拒否の方もいらっしゃるの確認する。  
→富士見町は開示の同意を頂いていない方が多いので、モデル集落で地域の皆さんに個別支援計画を作ってもらうことを検討している。同意率を上げることで、地域の方に知ってもらいたいと考えている。
- ・区長から「災害時に隣の障がい者を支援してほしい」という依頼があった。地域に開かれてきたと感じた。
- ・障がい児については受容難しく、地域への開示が抵抗のあるご家庭も多い。事業所として「何かあった時には地域の民生委員さんに応援してもらいましょう」と伝え、自宅訪問等ではなく、園でお引き合わせする場を作ったりしている。特に重度心身障害児の方の家族は、緊急時に預けられる場がないことが“育てられない”等のより大きな課題に繋がってしまう。一事業所で支えられることは限られているので、地域の課題として取り組んでほしい。

○地域生活支援拠点の整備に関して

- ・夜間に家族から「急にいなくなった。一緒に探してほしい」という SOS があった。緊急時の夜間の電話を受けられるチーム支援体制が必要ではないか。時間外であっても、日中の事業所など、一番身近な支援者が頼られるのが現状。 → 拠点整備（連絡体制の確保）の課題
- ・支えている父母が高齢だったり病気を抱えている方について、緊急時の体制整備やご本人の練習などが必要と感じる。 → 拠点整備（緊急時の受け入れ、体験の機会・場）の課題
- ・独居の方の大家さんが気にしてくれたり、隣り近所の方が煮物を持ってきてくれたりと支えてくださる。そんな関係の重要性を伝えていく。
- ・各所で、課題となる事例を出し合って、どこが担えるのか、責任を持てるのかを検討していくことで、拠点のような体制を作っていく必要があるのではないか。その体制を伝えることで、ご本人も安心して生活できる。

- ・ 現在ない資源を作り出していく役割も拠点の整備の際に考えてほしい。以前暮らしていた地域では、サービス外の“お泊り会”的な活動をしている団体に声をかけ、グループホーム化を促して資源を増やしていった経緯がある。

○その他 → AED 講習の受講と事業所への導入についての意見交換を行った。